

下宮

宇佐神宮は、たくさんの社殿がある大きな神社の中で、同じ神様を祀るお社が2つある珍しい例です。小椋山の頂上にある本社の上宮（上の社）に加えて、小椋山の麓にある下宮（下の社）があり、どちらにも、八幡神・比売大神・神功皇后が祀られています。古くからの地元のことわざでは、宇佐神宮を訪れる際に両方の場所で祈ることの重要性を表し、「もし下宮へ行かなければ、お参りは半分しか達成されない」と言われています。

下宮は上宮が建ってから約100年後の9世紀初頭に最初に建てられました。祀られている神々は同じですが、異なるご利益に関連付けられています。たとえば、上宮では八幡神は国の守護者として崇拝され、下宮では一般の人々と、農業や漁業など彼らの産業の守護者として崇拝されています。ある説によれば、上宮では当時、身分の高い人しかお参りできなかったために下宮が庶民の参拝場所となったので、このような違いができたと言われています。

下宮はかつて、神々のための神聖な食べ物や飲み物のお供え物を準備するために使用されていました。現在は主に神職によって日常の祭祀が行われる場所となっています。時折、下宮では、上宮本殿の大規模な修理の時に、上宮の神々を一時的に祀っています。今の下宮は1939年に改築されました。